

# 平成26年度事務事業評価外部評価用説明シート

記入日 平成 26 年 6 月 19 日

事務事業番号	05-01-01	事務事業名	野火止地区センター図書室維持管理事業
所管部課名	市民部生活文化課		

事業の概要について	
目的 (何のために)	図書を媒介とした市民の交流の場が確保されるよう、住民が管理運営委員会を組織し、図書室関連事業を実施するために、市が補助金の交付を行うとともに、図書室の運営を行う。
対象 (誰を何を対象にしているか)	市民
実施方法 (事業形態)	<input type="checkbox"/> 直営（委託無し） <input type="checkbox"/> 全部委託（指定管理者を含む）（委託先： ） <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託（一部委託先：シルバー人材センター） <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成金（交付先：東久留米市野火止地区センター図書室管理運営委員会） <input type="checkbox"/> その他（ ）
根拠法令	（市）東久留米市野火止地区センター図書室補助金交付要綱
内容 (制度の沿革・施設の 説明等わかりやすく)	<p>コミュニティ図書室は、図書館構想見直しとともに地域住民の要望に基づいて整備された。昭和61年図書館の中規模3館構想への変更で、新たに地域住民自らの手で管理・運営されるコミュニティ図書室の考え方がおこり、昭和63年に最初の図書室として野火止地区センター内に野火止コミュニティ図書室が開館。</p> <p>図書室設立時、コミュニティ図書室の『地域住民の方々が図書室の管理運営を担い、図書の貸し出しを通じて「地域コミュニティの醸成」を図っていく』という趣旨に則り管理運営を地域住民が行うことを検討したが、野火止地域は約1,000世帯の住民が居住し、6自治会を擁するなどの住民構成であり、住民だけで公的機関の図書室の管理者責任を十分に果たせる状況ではなく、また、地域住民による図書資料を媒体としたコミュニティ活動が皆無であったことから、市側と住民側による協議の結果、当初は市から委託された東久留米市コミュニティ振興公社が図書の貸し出し等図書サービスを担い、図書室管理運営委員会は図書室を中心とした行事・企画を行うこととなり、公民一体で管理運営する図書室が誕生した。</p> <p>平成17年度末のコミュニティ振興公社廃止時においても、野火止地区の住民構成は同じであり、高齢化も進行し、図書室の管理運営に責任をもってあたるのが困難な状況になることは変わりなかったことから、平成18年度より市直営の運営となり、名称を野火止地区センター図書室と改め、貸出業務を平成18年度は東久留米市社会福祉協議会、平成19年度以降は東久留米市シルバー人材センターへ委託している。コミュニティ図書室管理運営委員会（現：野火止地区センター図書室管理運営委員会）が市からの補助金を受け行事を実施している。</p> <p>行事の内容は多様で、住民がより身近に図書にふれあえる場としての施設である。</p> <p>◆昭和63年4月開設（野火止地区センター内に設置）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市は図書貸出等サービスをシルバー人材センターへ委託、行事実施に係る経費相当分を補助金として管理運営委員会に交付</li> <li>開室日及び開室時間：月・水・木・金 正午～午後5時 土・日 午前10時～午後4時 火曜休室</li> </ul>

コストの概要について		関連事務事業について	
(平成25年度決算見込額)		→「有」の場合、その事務事業概要等記載	
平成25年度費用		庁内に関連する事務事業の有無	有り
事業費 (財源内訳合計)	4,417千円	事務事業番号	05-01-02
財源内訳		事務事業名	コミュニティ図書室運営事業
特定財源	0千円	事業概要：	◆南町コミュニティ図書室（平成元年5月開設）南町地区センター内に設置。運営は市民で構成される南町コミュニティ図書室管理運営委員会による。市は管理運営費相当分を補助金として交付
特定財源の支出に伴う一般財源	0千円		◆下里コミュニティ図書室（平成3年6月開設）東京都住宅供給公社より土地の無償貸与を受け、建物を市で建設、運営は市民で構成される下里コミュニティ図書室管理運営委員会による。市は管理運営費相当分を補助金として交付するとともに、施設の維持修繕、光熱水費、通信費の支払いを行う
一般財源	4,417千円	事業費	8,760千円
人件費 (理論値)	423千円	人件費	1,268千円
トータルコスト (事業費+人件費)	4,540千円		

事業実績について

◆野火止地区センター図書室利用実績  
 昭和63年の開室から延べ4,012人の利用登録、延べ375,574冊の図書貸し出しがあった。

《過去5年間の実績》

	開館日数	登録者数	貸出冊数			一日平均 貸出冊数
			総数	一般	児童	
平成21年度	294	173	11,747	7,140	4,607	40
平成22年度	294	162	12,176	7,344	4,832	41
平成23年度	296	153	13,091	8,368	4,723	44
平成24年度	296	116	11,208	7,094	4,114	38
平成25年度	294	113	11,398	7,598	3,800	39

◆野火止地区センター図書室管理運営委員会への補助金交付額

	補助金額(円)
平成21年度	235,000
平成22年度	235,000
平成23年度	235,000
平成24年度	235,000
平成25年度	230,000

野火止地区センター図書室管理運営委員会  
 (構成)  
 自治会並びに委員会から承認された団体から推薦された2名以内の代表及び委員会から推薦された委員によって構成する。

- ・押出橋自治会 2名
- ・下里第二住宅自治会 2名
- ・親和会自治会 2名
- ・野火止二丁目住宅自治会 2名
- ・みどり会自治会 2名
- ・野火止会 2名
- ・おはなし「あい愛」 2名
- ・委員会推薦 1名

(平成26年4月時点)

◆野火止地区センター図書室管理運営委員会の実施行事(平成25年度)

- |                   |       |
|-------------------|-------|
| ① おはなし会(11回実施)    | 計496人 |
| ② 廃棄図書配布会         | 229人  |
| ③ 第6回 野火止輪投げ大会    | 22人   |
| ④ 夏休み工作教室         | 26人   |
| ⑤ 新春野火止寄席 公開稽古    | 26人   |
| ⑥ 野火止こどもおたのしみ会    | 33人   |
| ⑦ おとなのためのおはなし会    | 22人   |
| ⑧ 冬のフラワーアレンジメント教室 | 23人   |
| ⑨ 新春野火止寄席         | 57人   |
| ⑩ わらべうたの会         | 12人   |
| ⑪ 第7回 野火止輪投げ大会    | 21人   |
- 延べ967人参加

外部評価結果

《総評》

本を介してコミュニティ醸成を図ることを目的とした施策であるが、日常の運営は市が直接外部委託しており、目的とずれが生じている。地域住民のコミュニティ施策としては、再整理を進めていく必要がある。本の選書・配架等は重要であるがその部分を市から外部委託にして地域コミュニティのニーズを汲みつつバランスのとれた選書ができていないのではないかと見受けられる。

《主意見等》

- ・一日平均貸出冊数は延べ冊数か? 「39冊」とあるが、貸出冊数が年間「11,398冊」とある。2週間借りることができるので貸出期間をカウントしているのか。
- ・選書は重要である。下里コミュニティ図書室がスタッフを自力で雇用しているように、野火止地区センター図書室も管理運営委員会が図書室運営まで自らの意思と責任で行うのがコミュニティ自治ではないか。
- ・野火止地区センター図書室は、カバーの日焼け等から判断して貸出等の本の移動があまりないように見受けられる。イベント等のPRの貼紙を見ても詳細内容が記載されておらず、事業内容をよく見定めていく必要がある。

担当課の所見

- ・一日平均貸出冊数は、貸出冊数の総数を開館日数で割り、四捨五入を行った冊数であり、一回の貸出で1冊とカウントを行っている。
- ・選書の重要性を認識し、蔵書の構成や新鮮度、利用者のニーズを詳細に吟味し、より良い図書の選定を行う体制作りを行っていることが重要であると考えている。
- ・昭和63年設立当初から様々な経過を経て、市は図書貸出を業務委託し、住民は管理運営委員会による行事を行い図書との関わりを作るための事業を実施してきた現状がある。管理運営委員会による実施行事は、更に図書との携わりを通じて行われるべきであり、行事への参加促進のために、創意工夫をしてPRすべきであると考えている。

課題及び今後の対応について

- ・担当課の考え方により取組みを進めていく。